

発行日：2013年12月9日

《発達支援教育実践セミナー＆研究報告会を開催しました》

『支援を必要とする子どもたちの「向かう力」が生まれる支援と教育の創造—他者との関係性、やりとり、対話へと繋がりをもつ土壌—としての体験活動』と題して公開セミナー及び実践研究の報告を行いました。今年、大学を拠点とした支援教室の研究報告をはじめ、八重山地域や沖縄市立比屋根小学校と共同で行った実践研究の報告を行い、元京都女子大学、相談室ハタオリドリの山上雅子先生、神戸大学の赤木和重先生に講演と実践報告のコメントをしていただきました。年1回開催してきたセミナーも今年で8回目を迎え、約160名の教員、保護者、支援員、保育士、心理士、学生などの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。



セミナーのアンケートの一部をご紹介します。

○感動と明日への希望をもらいました。日々の実践の中で私も大切にしてきたことがそれでいいんだと安心となり自信にもなりました。あまりにも枠を意識した教育が注目を浴びるようになってから少し息苦しさを感じて日々葛藤していたところ今日の実践報告と講演はとても参考になりました。ありがとうございました。(教員)

○様々な試行錯誤の中、個人にあった企画を展開し、子どもたちが伸び伸び参加し成長できていけることが感じられました。(保護者)

○実践報告とてもよかった。一人一人の子にしっかり向き合いその子の課題をちゃんと捉えて先生方が対応している。いそがず、焦らず、型にはめず、まず子の思いをくみ取るのが大事と再認識しました。赤木先生の講演、ユーモアを交え、大変わかりやすかった。子に寄りそっているつもりでも自分の価値観で動いているなど大反省です。(相談員、元保育士)

《八重山で出前支援を行いました》

7月5日(金)～7日(日)の日程で、個別相談会、協働会議、集団支援教室、実践事例検討会を行いました。11回目となる集団支援教室には保育園から小学校までの13名の子どもたち(兄弟含む)とその保護者、教員、保育士などが参加し、実際の関わりを通して子ども理解や支援の在り方について学び合いました。

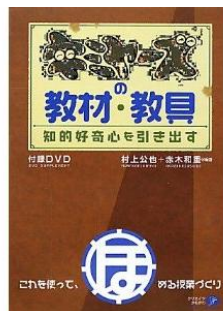
集団支援教室での事後ミーティングでのコメントをご紹介します。

《小学校児童の保護者から》体調を崩してしまい、お休みしようかと話したが、本人がすごく楽しみにしていて「約束したじゃん！」と泣かれてしまった。ほんとに毎回楽しみにしている。手が汚れるのがすごく苦手だが、今日はすごい落ち着いて穏やかに(絵具を)ペタペタして取り組んでいて驚きました。最後の片付けもだいたいいつもだと途中で違うものを見たり、投げ出したりしてしまうけど、今日は最後までやっていました。今までをふりかえると本当に成長したなあと感じられて、少しずつだけ成長していて参加してよかったなと思った。

《保育士から》講演などは聞きに行ったことはあるが、実際に(支援の場を)目で見るとは初めてで、やっぱり聞いただけじゃなくいろんな支援の仕方があるし見るととてもよかった。そして、実際に自分が携わっている子どもの様子を見て、保育所での姿と違うなあと、支援の仕方がいからすぐに中に入っていったし、先生のまねをして自分も楽しみながらやっていたという姿が見られてよかった。先生たちもお母さんたちもすごくいい顔をしていた。最後の感想発表のときに、お話ができない子どもなのでどうするんだろうと思って見ていたけど、担当の先生が変わりに代弁して伝えて、みんなの拍手が聞けたときに、この場が一体となっているのがすごくいいなと思った。支援者もお母さんたちも同じ場で楽しみを共有しているのが子どもにもいいように繋がっているんだなと思いました。

《本のご紹介》

セミナーの講師として来ていただいた赤木先生の本をご紹介します。



『キミヤーズの教材・教具-知的好奇心を引き出す-』村上公也・赤木和重著
特別支援学級で長く経験を積まれてきた村上先生が実際に学級で行ってきた授業内容や教材・教具をていねいに分かりやすく紹介しています。DVDがついているので、実際の授業の様子を見ることができ、とても参考になるのではないかと思います。好奇心をかきたてられ生き生きとした子どもたちの姿がとても印象的です。